

N型コネクターのシールド処理

アマチュア無線で一般的によく使われているコネクタには、低い周波数で使われているM型(マイク)と他に、N型(ナンシー)とがあります。他にもBNCやSMAと言ったコネクタも有りますが、これは又にします。

コネクタの種類については、以前に書いて居ますので思い出してください。コネクタを同軸ケーブルに取り付ける訳ですが、意外と「取り付けた事が無いです」との答えです。確かに面倒で厄介な作業ですがコネクタくらいは取り付けする練習をしましょう。M型は、N型に比べて部品は少なく取り付けもN型に比べると簡単です。N型は、部品が多く、バラバラにしてしまうと、慣れない方には順番が判らなく成ります。

バラす時は、順番に部品を並べて置けば、間違いませんネ、又、部品も小さいのでバラす時に無くさないよう注意してください。

では、先ず部品からですが、本体、本体の中には、テーパ状に成ったワッシャー状のカップリング、単なる平ワッシャー、センターコネクピン、ゴムガスケット、そして、本体にガスケットを締込むナットの6種が一般的です。業務用にはもっと複雑な物も有りますが今回は、このN型コネクタのシールド(網線)の処理法です。

コネクタは正確にはN型Pタイプ、NPと略されます。又、同軸の種類に依っても名称は変わって来ます。今回は、10D-2Vと言う同軸ケーブルの処理です。



写真左は何度か取り付け経験の有るアマチュア局です。右は弊社の若社員の処理です、(一応プロです)左の写真ではシールドが網の状態でテーパリングの出っ張りに覆いかぶさっていますネ、このまま本体を挿入しても本体は入りません。テーパリングと本体の間の隙間が僅かしか無く、テーパリングに被ったシールドが邪魔と成って本体は入りません。

結局入らないので又引き抜きますが、引き抜いた後のシールドが団子状態ですよネ、テーパリングの出張り迄、ニッパーで切り詰めて、やり直しです。

右の写真はどうでしょう、シールドの網目も綺麗に揃え、テーパリングの所で揃えて居ます。これなら、本体は挿入出来ます。後は芯線にピンを半田付けです。注意する事は半田鍋の熱で、同軸ケーブルの内部絶縁体を溶かさない様注意しましょう。何度も繰り返したり、長い時間半田鍋を当てて居ると絶縁体が溶けて来ます、出来るだけ素早くやる事です、焦ってやるとテンプラ、イモ半田付けに成ります。

慣れるには何度か経験が必要ですが、すぐに要領は掴めます。後は本体を締め付けるだけですが、本体側を回さないよう、本体をスパナで固定し、ナット側を回す様にします。本体が回るとシールドは本体の中で、先述の様に団子状態に成ります。中は見えないので判らないのですが、別に気にしないので有れば、それでも良いのですが、要は繋がって居れば良いだけです。基本通りに取り付けるのが一応プロの仕事です。

半田鍋は同軸種類の太さでワット数を選んで下さい。パーツを同軸に詰め込む順番は、写真を参考下さい。